
虹色の玉

宇ノ鹿 すい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

虹色の玉

【Nコード】

N4808M

【作者名】

宇ノ鹿 すい

【あらすじ】

男と女は同棲している。

そんな二人の目の前に、虹色の玉が現われた。

あるとき、男と女の目の前に、その虹色の玉は現われた。
何の前触れもなく、突然宙に浮かんでいたのである。

同棲している二人は、男は眉を潜め、女は微笑ましく笑った。

「なんだこれ」「綺麗」

虹色に玉が光るので、部屋は虹色に染められている。

男と女も、虹色に染まっていて、女は男の顔を見て、つい噴き出してしまった。

「おもしろい顔をしてる」

男はさらに眉を潜めたが、さらにおもしろい顔に変わるだけだった。
「うるさいな」

そんなことを言い合っているうちに、虹色の玉は消えてしまった。

そして部屋も元通りの姿に戻る。

女はがっかりした。男は一息をついた。

「もっと光ってくれればいいのに」「なんだったんだろうなー、さっきの」

まあ、二人とも、虹色の玉のことは、そのうち、忘れた。

それから一カ月後、男は働いている職場をクビになってしまった。
いろいろなトラブルのせいである。が、男のみに責任があるわけではない。そういうトラブルだった。だが、男は仕事をクビになった。
女は慰めた。

「また探せばいいじゃない、仕事」

だが、男は何も答えない。むっつりとした顔をしながら、眉を潜めている。

それが何だかおかしな顔つきだったが、あまりに男が陰気な顔をしているので、女はおかしな顔を笑うことも出来なかった。

それから、男はずっと陰気臭くなった。常に眉を潜めている。そんな男に女もほとほと愛想を尽かしたが、しかし見捨てることも難しかった。

女は、男に料理を作ってあげて、それを食べてもらうことで元氣を出してもらおうと試みた。

普段よりも精一杯作った。

こちらが頑張れば、男も頑張ってくれて陰気な顔をするのを止めてくれるかと期待したからだ。

だが、男は料理を一口、口に入れるとこう呟いた。

「まずい」

女は泣いた。

ある日、男がどこかに行ってしまった。部屋を飛び出してしまったのだ。

置手紙が置かれていて、

『これ以上は迷惑をかけられないね。さようなら、探さないでください』

ひどい内容に女はえづいた。こんな薄情な男を私は好きだったのか、なんて、悲しい思いが胸の内で黒ずんで来る。

女はこのとき初めて、眉を潜めた。

男は部屋の外。女は部屋の中。二人とも眉を潜めている。違う思いを抱えながら、同じ表情を二人がしていた時、奇跡は起った。

「あ」

部屋の中で泣いている女の目の前に、何時の間にか、虹色の玉が浮かんでいた。

「綺麗」

女は呟きながら、その虹色の玉に手を伸ばした。

すると彼女は指先から、何かに引っ張り上げられるのを身に感じた。悲鳴を上げている内に、彼女は虹色の玉に、全身を吸い込まれていったのである。

そして男にも同じ出来事が起っていた。

「なんだってんだ、これは」

男は公園のベンチで放心していたが、何時の間にか虹色の玉が目の前に浮かんでいた。

どうしようかと思ったが、男の耳に、声が聞こえた。懐かしい声だと思った。

「……………」

男は手を伸ばした。

そして男は、女がいつもするような微笑みを、何時の間にか浮かべていた。

男も、虹色の玉に吸い込まれていった。

男と女は、虹色の玉の中で、何時の間にか、手を取り合っていた。奇妙な空間だった。

周りの景色は、男と女が今までに見てきた世界だった。記憶だった。とっても不思議な場所である。

男は眉を潜めた。女は微笑ましく微笑んだ。

「久しぶり」「うん」

男と女は口付けをした。

こうして二人、再び結ばれた。

めでたし、めでたし。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4808m/>

虹色の玉

2011年11月14日00時01分発行